

日本医科大学東洋医学科活動報告

部長・教授	高橋 秀 実
非常勤講師	三 浦 於 菟
非常勤講師	平 馬 直 樹(H17.4 から)
非常勤講師	斉 藤 輝 夫(H17.6 まで)
非常勤講師	春 木 英 一(H17.3 まで)
医局長・医員	古 賀 実 芳
医 員	廣 田 薫
医 員	日 高 千鶴乃
非常勤鍼灸師	内 池 正 弘
非常勤鍼灸師	藤 田 勇
非常勤鍼灸師	菊 地 順 彦
非常勤鍼灸師	福 岡 豊 永
非常勤鍼灸師	福 島 厚
看 護 師	佐 藤 しず代
秘書(鍼灸師)	日 高 珠 保
顧 問	胡(菅沼) 栄
研 修 生	斉 藤 均(都立広尾病院)

沿 革

本科は、平成2年7月、東京都千代田区飯田橋にあった日本医科大学付属第一病院の東洋医学外来として発足した。平成4年6月、日本医科大学付属第一病院東洋医学センターと改名し、病院長直轄の診療研究教育組織となった(当時のセンター長は藤木健一)。平成9年7月、付属第一病院の閉院に伴い、文京区千駄木にある日本医科大学付属病院の東洋医学科として移転、東洋医学科発足当初から当科の維持・発展に尽くされた三浦於菟先生が部長(日本医科大学・助教授)となり、日本医科大学における東洋医学科が確立された。平成15年4月には日本東洋医学会の研修指定施設(指導医:三浦於菟、春木英一)として認定された。平成17年2月、部長の三浦於菟先生の東邦大学医学部東洋医学科教授への転出に伴い、日本医科大学微生物学免疫学教室教授で日本東洋医学会指導医の資格を有する高橋が東洋医学科部長を兼務することとなった。

診療活動

平成17年2月より東邦大学医学部東洋医学科教授として転出された三浦於菟先生の後任として、それまで先生が築かれた日本医科大学における東洋医学の火を消さないために高橋が東洋医学科の部長を引き継ぐこととなった。その後、大学側の意向により免疫療法実施施設として現在の丸山ワクチン研究施設内に移り、新たな体制で診療を継続している。日本医科大学付属病院の他科からの

紹介患者も次第に増え、現在の1外来体制では患者をさばききれない状況となってきた。全科からの紹介患者を受け入れているため、疾患の種類はあらゆる分野に亘る。中でも、西洋医学では根治しにくい難病である、再発性あるいは転移した悪性腫瘍(癌)、リウマチや膠原病などの難治性進行性疾患、慢性腎炎や慢性肝炎、アトピー性皮膚炎を含むアレルギー性疾患、不妊症や生理不順を含む婦人科疾患など多彩な疾患患者が来院する。もちろん、こうした患者群が感冒や胃腸炎・膀胱炎などの急性疾患を起こした場合には、抗菌剤などの西洋医学の薬剤の併用を含め適宜対処している。この中でも特徴的なのは、大学病院であるためか、悪性腫瘍患者群で、すでに手術や抗がん剤・放射線治療などを受けていることが多いため、そうした治療の内容にも医師が熟知していなければならない状況にある。幸い本東洋医学科の担当医は、それぞれが西洋医学のトレーニングも受けているため、検査を含めこうした難病疾患に当たっている。また、後述するように、本東洋医学科では、スーパーローテイト中研修医を受け入れているため、これら研修医の教育を含め、西洋医学の検査あるいは治療の併用を積極的に取り入れ、東洋医学と西洋医学を合体させた独自の医療の展開をめざしている。また、バックに大学の付属病院が控えているため、様々な疾患を抱えた入院患者さんも本科の治療の対象となることがあり、西洋医学的な治療に生薬あるいは鍼灸治療の併用を実施するとともに、それらの結果を定期的に行う研修医や医学生を交えたカンファレンスで検討している。

教育啓蒙普及活動

1) 卒前教育(医学部学生に対し)

3年生に対する基礎配属: 本医科大学では、報告者高橋が医学部3年生を対象とし「東洋医学的視点も含めた生体に内在する免疫応答力への理解」というタイトルのもと、およそ15年前から選択学生に対し中医学の講義主体とした陰陽五行説を含めた東洋医学の具体的な内容、また高橋が関与する各種診療所や病院での鍼灸治療や湯液治療の実践見学、免疫学を背景とした科学的な薬理作用の概説、そしてツムラの茨城工場でのエキス剤製造過程、薬理研究所および薬草園の見学を実施してきた。因みに平成17年度は選択者17名に対し1回1時間30分から2時間、総計20回の講義を実施した。例年このコースの選択者は非常に多

く、全学生が100名ならず、コースが80コース程度あるにもかかわらず15~20名がこの東洋医学コースを選択している現状は、医学部学生が潜在的に東洋医学への興味を抱いていることを示唆している。

4年生に対する東洋医学の教育：日本医科大学では、前任者の三浦於菟先生の時代から、医学部4年生を対象とし精神医学コースの中で東洋医学の講義を実施しており、平成17年度は高橋が講義を担当した。また、大学全体としては、講義時間が足りないと考えられるため、今後は少しずつ講義時間を増やしていく予定である。ただし、実際に講義を担当し感ずることは、全ての学生ではなく東洋医学に興味を持っている学生を対象として講義を行うことの方が遙かに効率的であり、その意義も深いことである。その意味で、現在日本医科大学で実施している選択学生を対象とした教育は、他の大学でも実践すべき事項ではないかと考えられる。

2) 卒後教育(研修医や大学院博士課程の学生に対し)

新臨床研修制度による研修：平成17年度は、日本医科大学付属病院での医師国家試験取得後の臨床研修を積んでいる約50名の研修医の内、7名が総計10ヶ月間、本東洋医学科で研修を積んだ。これらの研修医は配属された期間は全て東洋医学を学んでおり、将来東洋医学を自分の医療に取り込んで行きたいと考えているものの集団である。こうした研修医は東洋医学科のカンファレンスにも参加させ、自分が診た症例などについて報告させている。指導スタッフ不足のため、現在はひと月に1名の研修医を教育するのがやっとであるが、将来はより多数の研修医を受け入れたいと考えている。こうした、東洋医学科で研修を積んだ者に対しては、研修修了後も声をかけ、出来るだけ毎月1回実施している東洋医学科でのカンファレンスに参加させている。

3) 一般教育(一般大衆や医療者に対し)

平成17年度は、5月20日(金)からの富山で開催された日本東洋医学会のみならず、7月9日(土)には熱海での東静漢方研究会、8月24日(水)は北区の医師会、また8月31日(水)には文京区医師会、そして12月20日(火)には東京大学付属病院で東洋医学に対する講演を高橋が行った。また、業績集に示すように教室の平馬や古賀らも適宜東洋医学普及の為の学術講演を精力的にこなしている。

研究活動

生薬の作用機序を探る目的で、その作用点と考

えられる粘膜、特に小腸の粘膜組織における免疫システムについての研究をこれまでの研究成果に立脚しヒトのみならず動物モデルを駆使して行った。その結果、サルの小腸粘膜よりCD4陽性CD8陽性の粘膜固有の特殊なT細胞株の樹立に成功した(Arch. Virol. 150:1517-1528, 2005)。また、粘膜組織を反映すると考えられるIgAを多量に含むヒト乳汁中には免疫応答の鍵を握る樹状細胞群が多数存在することを確認した(J. Inf. Dis. 191:174-181, 2005)。そして、粘膜免疫における生薬などの抗原情報を伝達すると推測されるCD1分子は、ヒト・サル・チンパンジー・マウス間ではそれぞれ異なるものの、ヒトの中では殆ど多様性が認められないことを見いだした(Tissue Antigens 66:674-682, 2005)。こうした事実は、ヒトにおいて作用する物質が必ずしも他の動物種では作用しないこと、生薬の薬理作用の研究はやはりヒトの細胞群を用いて研究を進めることの重要性を示唆している。さらに、胃粘膜などの粘膜組織に局在する自己免疫との関連が指摘されているB-1細胞が、ピロリ菌のウレアーゼという酵素によって活性化しリウマチ因子を産生することを見いだした(Infect. Immun. 2006, in press)。以上の結果得られた細胞群を用いて、生薬群がこれらの粘膜に存在する細胞群に与える影響を検討し、今後はその真の薬理効果を追跡するとともに様々な自己免疫疾患の生薬を用いた治療法などを検討する予定である。

著書

- 1) 三浦於菟, 岡田研吉: 気血水健康法: イルカBOOKS, 冬青社, 2005, 2
- 2) 三浦於菟: こころと体に効く漢方学: 新潮選書, 新潮社, 2005, 5
- 3) 三浦於菟, 福生吉裕, 波平恵美子: 未病息災: 健康双書, 農文協(源草社の復刻版), 2005, 12
- 4) 平馬直樹, 瀬尾港二, 稲田恵子: 図解よくわかる東洋医学, 池田書店, 2005, 5

総説

- 1) 高橋秀実: 自然免疫と獲得免疫の基礎: 樹状細胞を介したウイルス特異的キラーT細胞の誘導, 最新医学, 2005, 60(3): 556-565
- 2) 高橋秀実: HIV/AIDSの病態進行とワクチン開発の進歩, 日本エイズ学会誌, 2005, 7(2): 83-92
- 3) 高橋秀実: 腸管におけるinnate immunity, 無菌生物, 2005, 35(1): 21-25
- 4) 高橋秀実: 自然免疫システムとHIV, 日本工

- イズ学会誌, 2005, 7(3): 556-565
- 5) 三浦於菟: 漢方ものしり辞典・東洋医学対語述語 - 癥瘕・積聚, MEDICAL KANPO, 2005, 春号: 16
 - 6) 三浦於菟: 専門医のカルテから・花粉症, 漢方・週刊朝日増刊号, 2005, 110(15): 97
 - 7) 三浦於菟: 漢方ものしり辞典・東洋医学対語述語 - 崩漏・癥閉, MEDICAL KANPO, 2005, 秋号: 12
 - 8) 三浦於菟: こうして東静漢方に行きついた, 東静漢方研究室, 2005, 28(3): 73-77
 - 9) 三浦於菟: 医学用語の語源, 医学メディアセンター, 2005, (11): 1-2
 - 10) 沼田健裕, 三浦於菟: 漢薬記憶法(3), 漢方研究, 2005, (12): 454-456
 - 11) 春木英一: 小児科日常診療に役立つ漢方療法: 特集 日常診療に役立つ最新の薬物治療と副作用対策, 小児科, 増刊号(印刷中)

原 著

- 1) Satomi, M., Shimizu, M., Shinya, E., Watari, E., Owaki, A., Hidaka, C., Ichikawa, M., Takeshita, T., Takahashi, H.: Transmission of macrophage-tropic HIV-1 by breast milk macrophages via DC-SIGN. *J. Infect. Dis.*, 2005, 191(1):174-181
- 2) Watari, E., Shimizu, M., Takahashi, H.: Langerhans cells stimulated by mechanical stress are susceptible to measles virus infection. *Intervirology*, 2005, 48(2):145-152
- 3) Iizumi, T., Yamanishi, S., Kumagai, Y., Nagata, K., Kamiya, S., Hirota, K., Watanabe, E., Sakamoto, C., Takahashi, H.: Augmentation of *Helicobacter pylori* urease activity by its specific IgG antibody: implications for bacterial colonization enhancement. *Biomed.Res.*, 2005, 26(2):35-42
- 4) Saito, N., Takahashi, M., Akahata, W., Ido, E., Hidaka, C., Ibuki, K., Miura, T., Hayamai, M., Takahashi, H.: Analysis of evolutionary conservation in CD1d molecules among primates. *Tissue Antigens*, 2005, 66:674-682
- 5) Takahashi, M., Ido, E., Uesaka, H., Fukushima, T., Ibuki, K., Miura, T., Hayami, H., and Takahashi, H.: Comparison of susceptibility to SIVmac239 infection between CD4+ and CD4+8+ T cells. *Arch. Virol.*, 2005, 150:1517-1528
- 6) Enomoto, Y., Sugita, M., Matsunaga, I., Naka, T., Sato, A., Kawashima, T., Shimizu, K., Takahashi, H., Norose, Y., Yano, I.: Temperature-dependent biosynthesis of glucose monomycolate and its recognition by CD1-restricted T cells. *BBRC*, 2005, 337:452-456
- 7) Yamanishi, S., Iizumi, T., Watanabe, E., Shimizu, M., Kamiya, S., Nagata, K., Kumagai, Y., Fukunaga, Y., Takahashi, H.: Implications for induction of autoimmunity via activation of B-1 cells by *Helicobacter pylori* urease. *Infect. Immun.*, 2006, 74(1):248-256
- 8) Watanabe, Y., Watari, E., Matsunaga, I., Hiromatsu, K., Dascher, C.D., Kawashima, T., Norose, Y., Shimizu, K., Takahashi, H., Yano, I., Sugita, M.: BCG vaccine elicits both T-cell mediated and humoral immune responses directed against mycobacterial lipid components. *Vaccine*, 2006, (in press).
- 9) 三浦於菟: 気虚証の盗汗症例とその病態, 漢方の臨床, 2005, 52(8):1170-1177
- 10) 三浦於菟: 清心蓮子飲の有効性と効能, 東静漢方研究室, 2005, 28(3):1-9
- 11) 三浦於菟: 滋陰降火湯と滋陰至宝湯の効能比較, 東静漢方研究室, 2005, 28(3):73-77

学会発表

国際学会

- 1) Takahashi, H.: Fetal-maternal transmission of macrophage-tropic HIV-1 by breast milk macrophages via DC-SIGN, 7th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific Symposium (Kobe, Japan), 2005, 7. 1-5
- 2) Takahashi, H.: Endogenously expressed HIV-1 nef down-regulates not only class I MHC but also CD1a molecules: A new target for vaccine development. Japan-US Cooperative Medical Science Program: The 18th Joint Scientific Meeting of AIDS (Hanoi, Vietnam), 2005, 11. 15
- 3) Takahashi, H.: Fetal-maternal transmission of macrophage-tropic HIV-1 captured by breast milk macrophages. The 17th International Conference on Emerging Infectious Diseases in the Pacific Rim (Hanoi, Vietnam), 2005, 11. 16-17

国内学会

- 1) 高橋秀実: 新たなる未病への挑戦 - 現代免疫学的視点からみた疾病の本態に関する洞察, 第11回日本未病システム学会総会 特別講演 大宮, 2005.1.8~9
- 2) 高橋秀実: 腸管における innate immunity, 第38回日本無菌生物ノートバイオロジー学

- 会総会 特別講演 大阪, 2005.1.26~27
- 3) 高橋秀実: 免疫学の最新情報: 新たな医学をめざして, 平成 16 年度自己治癒力研究会総会特別講演 東京, 2005.2.10
 - 4) 高橋秀実: 免疫システムの新たな実態: 基本免疫と獲得免疫 第 79 回日本感染症学会総会特別講演 名古屋, 2005.4.14~15
 - 5) 高橋秀実: 霊長類における CD1d 分子の保存性と SIV/HIV 感受性, 文科省特定領域研究「サルを用いた感染症研究」の現状と今後を考える会議 ワークショップ 京都, 2005.9.16~17
 - 6) 高橋秀実, 里見操緒, 清水真澄, 新谷英滋, 渡理英二, 大脇敦子, 日高千鶴乃, 市川雅男, 竹下俊行: 母乳中マクロファージを介したレトロウイルスの感染伝播のメカニズム: R5-type HIV-1 をモデルとして, 第 53 回日本ウイルス学会総会 ワークショップ 横浜, 2005.11.20~22
 - 7) 高橋秀実, 高橋めぐみ, 斎藤尚紀, 守屋慶一, 上坂浩実, 福島達伸, 井戸栄治, 伊吹謙太郎, 三浦智行, 速水正憲: サル CD4+T 細胞と CD4+CD8+T 細胞の SIVmac239 に対する感受性の差違 第 19 回日本エイズ学会総会 一般講演 熊本, 2005.12.1~3
 - 8) Takahashi, H., Satomi, M., Shimizu, M., Shinya, E., Watari, E., Owaki, A., Hidaka, C., Yagi, Y., Ichikawa, M., Takeshita, T.: Transmission of macrophage-tropic HIV-1 by breast milk macrophages via DC-SIGN, 第 35 回日本免疫学会総会 一般講演 横浜, 2005.12.13~15
 - 9) 三浦於菟: 春季アレルギー性鼻炎の漢方薬治療: 東洋医学的観点による分類の試み, 第 59 回東邦医学会 特別講演 東京, 2005.11.10
 - 10) 三浦於菟: 倦怠感を訴える精神障害者の東洋医学的病態像, 第 56 回日本東洋医学会学術総会 一般講演 富山, 2005.5.21
 - 11) 高岡直子, 小菅孝明, 熊谷由紀恵, 河野吉成, 林田和郎, 土屋喬, 三浦於菟: 顔面紅潮に対する温経湯の一例, 第 62 回日本東洋医学会関東甲信越支部学術総会 一般講演 千葉, 2005.10.9
 - 12) 春木英一: 小児アレルギー性疾患に対する中医学的治療, 第 27 回日本小児東洋医学会秋季大会 シンポジウム 兵庫, 2005.9.25
 - 13) 春木英一: 『鍼灸による疼痛の治療』-整形外科疾患を中心に, 第 57 回日本良導絡自律神経学会東京学術大会 特別講演 東京, 2005.10.9
- 講演
- 1) 高橋秀実: 粘膜免疫とアレルギー, 第 16 回多摩小児アレルギー臨床懇話会 特別講演 多摩, 2005.3.12
 - 2) 高橋秀実: 脂質と粘膜免疫, 第 12 回関東 Lipid Artery 研究会 特別講演 東京, 2005.5.25
 - 3) 高橋秀実: 生薬の作用に関する一考察, 東静漢方 35 周年記念会 特別講演 熱海, 2005.8.9~10
 - 4) 高橋秀実: 新たな治療法の模索: 骨髄移植と標的治療薬, 北区医師会学術講演会 特別講演 東京, 2005.8.24
 - 5) 高橋秀実: 未病治療および病との共生, 北区医師会学術講演会 特別講演 東京, 2005.8.31
 - 6) 高橋秀実: 風邪に対する東洋医学的治療, 文京区主催大学公開講座 特別講演 東京, 2005.8.31
 - 7) 高橋秀実: 癌の免疫療法・丸山ワクチン作用機序に関する一考察, 日本 NPO 丸山ワクチンと癌を考える会シンポジウム 特別講演 東京, 2005.9.10
 - 8) 高橋秀実: 漢方薬でエイズウイルスの持続感染は制御できるか, 第 5 回東京大学実践漢方セミナー 特別講演 東京, 2005.12.20
 - 9) 三浦於菟: 一貫性の症例, 温知会研究会 一般講演 東京, 2005.5.14
 - 10) 三浦於菟: 最近の治験から一清心蓮子飲及び滋陰降火湯と滋陰至宝湯の症例と効能, 第 20 回東静漢方シンポジウム 一般講演 熱海, 2005.7.9
 - 11) 平馬直樹: 気の病証と治療, 神奈川実践漢方勉強会 教育講演 横浜, 2005.1
 - 12) 平馬直樹: 血の病証と治療, 神奈川実践漢方勉強会 教育講演 横浜, 2005.6
 - 13) 平馬直樹: 湿の病証と治療, 神奈川実践漢方勉強会 教育講演 横浜, 2005.10
 - 14) 平馬直樹: 丁甘仁とその時代, 阿蘇漢方シンポジウム 一般講演 熊本, 2005.3
 - 15) 平馬直樹: 新安医学を訪ねて, 東京臨床中医学研究会 一般講演 東京, 2005.1
 - 16) 古賀実芳: 日常臨床に役立つ漢方 15 処方, 阿賀北漢方研究会・県央地区漢方勉強会 特別講演 燕三条, 2005.6.15
 - 17) 古賀実芳: はじめての漢方, 「2005 働く女性のための漢方セミナー~女性の悩みに漢方を~」朝日新聞社広報局主催 特別講演 東京, 2005.11.1
 - 18) 古賀実芳: 漢方薬の服薬指導について一よく質問される内容を中心に, 臨床薬学研究会

特別講演 東京，2005.11.9

- 19) 古賀実芳：「病人」を診る漢方～漢方外来診察室より～，第1回 愛宕漢方医学研究会 特別講演 東京，2005.12.2